

大学生訪韓団（第1～2団）派遣事業の記録

1. プログラム概要

【目的】日本全国から選抜された大学生たちを韓国に派遣し、各種視察、大学訪問等を通じた同世代との交流、講義聴講等を通じて、韓国の社会や文化に対する理解を深め、日本の魅力を広く積極的に発信することにより、今後の日韓間における相互理解の促進や信頼関係増進の基盤強化に寄与することを主目的とする。

【参加者】 プレプログラム（オンラインによる事前学習） 日本の大学生等 50 名
派遣プログラム 日本の大学生等 50 名

【訪問地】 プレプログラム 京畿道城南市 50 名
派遣プログラム ソウル特別市、京畿道城南市、京畿道高陽市、京畿道坡州市、
慶尚北道慶州市、釜山広域市 50 名

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

3月2日（土） オリエンテーション（プログラム説明）、講義

■ 派遣プログラム：

3月10日（日） 仁川国際空港より入国、オリエンテーション

3月11日（月） 【講義聴講】「日韓関係と在外公館の役割」、【表敬】韓国国立国際教育院、
【大学訪問・交流】東国大学校、
【講義】「経済的側面から見た日韓関係の過去、現在そして未来」

3月12日（火） 【視察】現代モーターススタジオ高陽、【視察】大韓民国歴史博物館、
【視察】世界遺産 昌徳宮、【文化体験】韓服、【視察】南山ソウルタワー

3月13日（水） 【視察】非武装地帯（DMZ）、【学校訪問・交流】KAC 韓国芸術院

3月14日（木） 慶尚北道慶州市へ移動、【視察】世界遺産 仏国寺・石窟庵、東宮と月池、
釜山広域市へ移動

3月15日（金） 【視察】松島海上ケーブルカー、【企業訪問】大鮮酒造株式会社、成果報告会

3月16日（土） 金海国際空港より出国

2. 記録写真



2024年3月11日【講義聴講】「日韓関係と在外公館の役割」



2024年3月11日【大学訪問・交流】東国大学校



2024年3月12日【視察】現代モータースタジオ高陽



2024年3月12日【視察】大韓民国歴史博物館



2024年3月13日【視察】非武装地帯 (DMZ)



2024年3月14日【視察】世界遺産 仏国寺



2024年3月15日 【企業訪問】大鮮酒造株式会社



2024年3月15日 成果報告会

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 日本 大学生

東国大学や KAC 韓国芸術院での学生との交流は同世代の韓国人と関わる機会の少ない自分にとってとても良い経験だった。また、DMZ や歴史博物館への訪問は遠い話のように感じていた戦争が韓国人は今も身近なことであると分かり、戦争や平和について考えていかなければならないと感じた。

◆ 日本 大学生

「相手の言語で話すことは相手の目線に合わせること」。今回のプログラムで最も心に残った言葉である。目線を合わせて相手を理解しようとする、相手の立場で物事を考えることは、日常から国同士の関係まで全ての場面で必要なことだと改めて考えさせられた。

◆ 日本 大学生

現地大学生との交流が非常に良かった。日本が好きではない韓国人は多いと思っていたが、日本語を熱心に勉強している学生や日本に憧れを持っている同世代の学生達がたくさんいることを知り凄くうれしかったし安心した。

◆ 日本 大学生

東国大学における講義が印象的だった。韓国と日本の密接な経済関係について、データやアンケート調査を通じた韓国側の視点を知ることができて新鮮だった。また質疑応答において、少子化対策についての教授の意見を伺うことができ有意義な時間だった。

◆ 日本 大学生

少子高齢化や非正規雇用増加の問題等を現地学生との交流を通じて理解を深めることができた。お互いが直面する様々な社会課題に対処するためには特に青少年交流が重要であり、日韓が連携して解決策を模索することが不可欠だと感じた。

4. 受入れ側の感想（抜粋）


◆ 韓国側受け入れ機関担当者

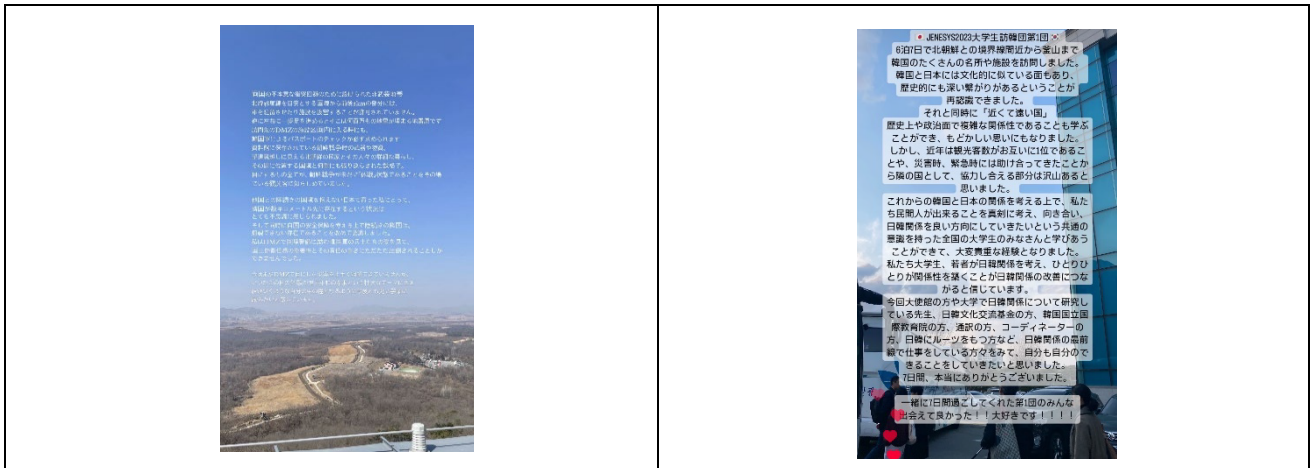
今回のプログラムは韓国の教育と文化、韓国の過去と現在を実際に体験できるよう計画した。プログラムを通じて両国の学生が交流し、お互いについての理解が深まっていく姿を見て、担当者としてやりがいを感じるだけでなく、この事業の本当の意味をあらためて知ることができた。このプログラムが両国間の理解促進を通じた協力基盤の構築とネットワーク形成に寄与することを願っている。

◆ 学校訪問先関係者

今回の交流会が日韓の学生にとってお互いのことを知る良い機会になればと思う。そして、今回の出会いが1回限りで終わるのではなく、これからの日韓交流の小さな一歩になることを願っている。日本と韓国は近くて遠い国というが、重要なことは難しい関係であるほど、より顔を合わせてその関係を改善していかなければならないということだ。その点で未来を担う若者たちの民間交流はとても重要である。今回の交流が両国の友好関係促進の礎になることを心から祈っている。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

	<p>東国大学に行きました。宋教授様より経済面から見た日韓の関 係について講義していただきました。日本と同じ課題がある少子 化高齢化について議論していく機会であるという話にいろいろ感 触をもちました。その後は、大学生の方と交流しました！東国大 学の学生は日本語がすごいと学んで驚きました。そしてみなさん 本当に楽しくてたくさん話していただきました！日本を紹介 するコーナーがあり、日本食について紹介させて頂きました！自 分が大好きな食のことも韓国で紹介できることが楽しかったし、 前のめりになって聞いて下さり嬉しかったです！日本食繋がり でお土産としてお茶漬けをお返ししました。🍵 夜は韓国へ行きました！韓城として関わっていました。さらば ら日本食が懐かしくて日本の方が思ってたよりたくさんいまし た！現地の人も楽しかったです！サマーフーンのお席を満ちつ て入ってみんな日本と韓の繋がりがぐんぐんありました！日本のも のよりサイズが大きい気がしました。🥰</p> <p>We went to Dongguk University, Professor Mesahiro Song gave us a lecture on Japan-Korea relations from an economic perspective. I was most interested in his talk on how Japan and Korea should solve the same problems as Japan, namely the declining birthrate and aging population. Afterwards, we had a chance to interact with university students! I was surprised that the students of Dongguk University spoke very good Japanese 🇯🇵 and everyone was very kind and gave me a lot of information. 🍵 There was a corner to introduce Japan, and I introduced Japanese food! It was fun to introduce my favorite food in a foreign country, and I was so happy that they listened so attentively to my presentation! 🍷 At night, we went to Myeongdong! It was a bustling tourist spot. I could hear Japanese here and there, and there were more Japanese people there than I expected! Dinner was also delicious! I found a Thirty-One store and went in! I felt the size was bigger than Japanese ones.</p> <p>#日韓文化交流基金 #JENESYS #JENESYS2023 #大学生お話 📷 #219日 #韓国</p>
<p>2024年3月11日 (Instagram)</p> <p>想像以上に日本語が通じることにすごく驚きました。日本語を習得するのは難しいはずなのに、私の韓国語とは比べ物にならないくらい流暢に話す力をみんな持っている、「私も頑張らなきゃ！」という気持ちになりました。日本の魅力紹介で映画やドラマのフライヤーデザインの日韓比較について話しましたが、前のめりになって聞いてくれて、日本への関心の高さを実感することができました。</p>	<p>2024년 3월 11일 (Instagram)</p> <p>大学での交流時に日本を紹介する時間があり、日本食について紹介させて頂きました！自分が大好きな食のことを異国で紹介できることが楽しかったし、一生懸命聞いてくれて嬉しかったです。日本食繋がりでお土産としてお茶漬けを渡しました。</p>



2024年3月14日 (Instagram)

資料館に保存されている朝鮮戦争時の武器や物資、望遠鏡越しに見える北朝鮮の民家と人々の暮らし、その間に位置する国境と何重にも張り巡らされた鉄格子。目にするもの全てが未だに「休戦」状態であることをその場にいる観光客に知らせていました。他国と陸続きの国境がない日本で育った私にとって、隣国が数キロメートル先に存在するという状況はとても不思議に感じられました。

2024年3月16日 (Instagram)

韓国と日本は文化的に似ている面もあり、歴史的にも深い繋がりがあるということが再認識できました。それと同時に「近くて遠い国」、歴史や政治面で複雑な関係性であることも学ぶことができ、もどかしい思いにもなりました。これからの韓国と日本の関係を考える上で、私たち民間人が出来ることを真剣に考え、向き合い、日韓関係を良い方向にしていきたいという共通の意識を持った全国の大学生のみなさんと学びあうことができ、大変貴重な経験となりました。私たち大学生、若者が日韓関係を考え、ひとりひとりが関係性を築くことが日韓関係の改善につながると信じています。

6. 報告会での訪韓成果とアクション・プラン発表

(訪問地：ソウル特別市、京畿道城南市、京畿道高陽市、京畿道坡州市、慶尚北道慶州市、釜山広域市)

訪韓中に学んだこと・感じたこと①

- ・韓国で数日間生活してみても、街並みや文化など、韓国と日本はとても似ている国だと感じた。
- ・韓国の多くの学生が日本に興味を持ってきていることや、韓国にいながらもあらゆる場所で日本語が聞かせることなどから、物理的にも精神的にも日本と韓国は距離の近い国であることを実感した。

訪韓中に学んだこと・感じたこと②

- ・韓国大学校と芸術院の学生との交流からは、文化交流の重要性を学んだ。私たちの世代が交流し続け、ともに共通の課題に向き合うことで、日韓関係のさらなる発展に貢献できると感じた。
- ・韓国の現状理解：国立国際教育院国際交流センター長のイ・ホンクンさんが成果報告会で「戦争はまだ終わっていない」という発言がとても印象に残っている。また今回のプログラムでは、特に歴史や経済面での韓国の過去、現在、そして未来を知ることができたと感じている。

訪韓中に学んだこと・感じたこと③

- ・韓国で数日間生活してみても、街並みや文化など、韓国と日本はとても似ている国だと感じた。
- ・韓国の多くの学生が日本に興味を持ってきていることや、韓国にいながらもあらゆる場所で日本語が聞かせることなどから、物理的にも精神的にも日本と韓国は距離の近い国であることを実感した。

アクションプラン

テーマ関連のプログラムの感想①

テーマ関連のプログラムの感想②

JENESYS2023 大学生訪韓団

○訪韓中に学んだこと・感じたこと

- ・韓国で数日間生活してみても、街並みや文化など、韓国と日本はとても似ている国だと感じた。
- ・韓国の多くの学生が日本に興味を持ってきていることや、韓国にいながらもあらゆる場所で日本語が聞かせることなどから、物理的にも精神的にも日本と韓国は距離の近い国であることを実感した。

○アクション・プラン

- ①新聞に訪韓の体験談を寄稿する。SNSとはまた違った、幅広い年代の多くの方に読んでもらう。
- ②大学の国際交流関連のSNSに体験談を投稿する。プログラムの宣伝も兼ねて行うことで、来年度の訪韓団参加に興味を持ってもらう。
- ③大学で授業を受けるなど、韓国語の勉強を引き続き行い、検定試験にも挑戦する。国際交流をするにあたって言語の重要性を改めて実感したため、韓国語のスキルをさらに高め、もっと多くの人と関わっていききたい。
- ④SNSでの発信を引き続き行う。訪韓中には載せられなかった写真や情報を投稿し、訪韓団のことが韓国の魅力をよく詳しく知ってもらおう。

【訪韓中の学び】
日本から見た歴史と韓国から見た歴史は違う。歴

【訪韓中の学び】
韓国で数日間生活してみても、街並みや文化な

史は時代や場所、受け取る側によって考え方が変わる。だからといってお互いに否定するのではなく、互いの意見に聞く耳を持ち、尊重する姿勢が大切であること。

【テーマに関する訪韓中の発表】

日韓両国において、少子高齢化、ジェンダー、ワークライフバランスなどの問題が共通の課題として存在している。例えば少子化の解決策として育児に関するお金を政府が負担するなど政策が出ているが、解決には至っていないが、それは両国ともに未だに育児は女性がして男性は外で働くものという固定概念が残っているからかもしれない。しかし、韓国では共働きが家族で協力するという姿勢が見られ、日本では少しずつ育児休暇を取りやすい環境作りが進んでいる。互いが相手の良いところを取り入れる等、客観的に指摘することが共通の問題の解決につながるのではないかな。

【アクション・プラン】

- ・訪韓中に撮影した動画を編集してアップロードする。
- ・Instagramでの投稿を引き続き行う。
- ・新聞と大学の広報誌に訪韓団での経験を寄稿する。

ど、韓国と日本はとても似ている国だと感じた。また、韓国の多くの学生が日本に興味を持ってきていることや、韓国にいながらもあらゆる場所で日本語が聞こえてくることなどから、物理的にも心理的にも日本と韓国は距離の近い国であることを実感した。

【テーマに関する訪韓中の発表】

・日韓交流については、東国大学校と芸術院の学生との交流を通し、文化交流の重要性を学んだ。私たちの世代が交流し続け、ともに共通の課題に向き合うことで、日韓関係のさらなる発展に貢献できると感じた。

・韓国の現状理解については、国立国際教育院国際交流センター長のイ・ホンゲンさんが成果報告会でおっしゃっていた「戦争はまだ終わっていない」という発言がとても印象に残っている。また今回のプログラムでは、特に歴史や経済面での韓国の過去、現在、そして未来を知ることができたと感じている。

【アクション・プラン】

- ・新聞に訪韓の体験談を寄稿し、SNSとはまた違った、幅広い年代の多くの方に読んでもらう。
- ・大学の国際交流関連のSNSに体験談を投稿し、プログラムの宣伝も兼ねて行うことで、来年度の訪韓団参加に興味を持ってもらう。
- ・大学で授業を受けるなど、韓国語の勉強を引き続き行い、検定試験にも挑戦する。国際交流をするにあたって言語の重要性を改めて実感したため、韓国語のスキルをさらに高め、もっと多くの人と関わっていきたい。
- ・SNSでの発信を引き続き行う。訪韓中には載せきれなかった写真や情報を投稿し、訪韓団のことや韓国の魅力をより詳しく知ってもらう。

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金